



小池 光選

湧き上がる泉の水のふくらみを手で押さえたる
夏の夕暮 北名古屋市 月城 龍一

【評】泉の水が湧いてくるときの感じをよく捉えている。たしかにその水は「ふくらむ」ように出てきて、さしのべる手の平は「押さえる」ように添えられる。結句もよい。

学校でマツチの擦り方習ひしと小五の孫が線香供ふ 藤枝市 北泊あけみ

【評】生活に必須のものであったマツチが、いつの間にか使われなくなった。その使い方をいまでは学校で習う。こわくわく擦って、仏壇に線香あげる。こころやさしい孫。

夫二種類、われ三種類、犬五種類、加齢ですねと出されし葉 土浦市 大竹 淳子

【評】年とつてくるとみんなどこかに不具合が生じて、葉を飲まない人は稀だ。犬も同様、人間以上の葉を飲む。たいへんだなあ。

「雨音はショパンの調べ」ききながら夫のステテコのゴム取りかえる 佐世保市 鴨川 富子

何の樹か知らないけれど山藤に絡まっている樹の幸不幸 鳥取県 表 いさお

けんめいに生きたれば未来は明るいといふ師いふ八十四の吾に 城陽市 相原 洋次

ゴミ置き場捨ててある鍋見るたびに思い出される村の鍬掛屋 川口市 島村 武光

「人生の並木路」をは口ずさみふるさと捨てたはるけし昭和 東大阪市 池中 健一

初めての入院の日々に読み返す中野重治「斎藤茂吉ノート」 横濱市 森 秀人

リハビリの超音波より効いてるよ受付嬢のはじける笑顔 横濱市 桑原 芳勝

栗木 京子選

バス停に赤字路線区と書かれていて敬老バス手心が痛む 神戸市 遠山 敏子

【評】バスの運行が続ければ続けるほど赤字が膨らむ路線。だが作者にとっては大切な外出手段である。敬老バスを堂々と使っていたきたい。結句の謙虚な心情が切ない。

一年も忘れ切手を足して出す！二日後届くふかふかメール 上越市 小島 章子

【評】手紙を書いたまま投函を忘れて一年。その間に郵便料金が値上がりしていた。手紙の返事はすぐにメールで届いた。「ふかふか」が楽しい。一年と二日の対比が印象深い。

初めてのテレビが来た日部屋中を掃除する母の姿があった 高崎市 松田 正義

【評】テレビを置くあたりだけでなく部屋中を掃除して到着を待ったのだ。まるで賓客のようなテレビの存在感が目に浮かぶ。

五月四日朝の散歩で町一周このほりには出会わなかった 横濱市 井上 誠一

ジーンズにゴム長靴の三代目関口さんの田植え始まる さいたま市 柳館多恵子

女学生の母働きし飛行機工場の跡地は公園わが孫あそぶ 東京都 志野とも子

リビングで喋らないきみ瀧刺と屋台の店主と掛け合うタベ 札幌市 丸ヶ崎結子

クレート車建築工事と思いがピアノ吊りだす春の異動期 横濱市 山本喜太郎

鬱なんてこぶし固めて追い払え昔の明るい姪っ子にもどれ 深谷市 村田 利雄

賑やかに燕飛び交うターミナル潮風も乗るこの島のパス 京都市 足立 紀子

俵 万智選

くらやみでわりとすんなり靴をはく生きてることに慣れすぎている 東京都 無地ムジカ

【評】靴をはくのは人間だ。生き物として、わりと珍しいことを、見えなくてもやってのける日常。無意識、無自覚なことに立ちどまる下の句が印象的だ。

生きている証のスタンプ押すように母はポンポン杖つき進む 朝霞市 くりはらさとみ

【評】杖をついて歩く様子を、楽し気な比喻で表現したところがいい。たぶん人生の道のりも、こんな感じでリズムミカルに前向きに進んでくれたお母さまなのだろう。

大空を引き寄せてゆくロープウェイ麓の町をジオリマにして 横濱市 山田 知明

【評】ロープウェイに乗った時の感覚がダイナミックに捉えられた。「引き寄せて」という動詞が、空を手繰り寄せるように効いている。

背の瑠璃をいつしゆん見せて飛びゆきしカハセミの棲むきりぎりしあをむ 市原市 井原 茂明

鳥たちの譜面台みたい公園の空を見上げるソーラーパネル 東京都 富見井高志

夏の季語みたいな少年かろやかにバットを振って射抜く青空 高崎市 くらたか湖春

「イルカ！」とか「ウミガメ！」だとか大空を水族館にかえる幼子 久喜市 後藤 直之

「のど自慢」のチャンピオン決まる時刻なり帰る来る子の麵で上げる 船橋市 矢島 佳奈

カーペット剥がして床を拭きたれば意外に広しわが専有地 和歌山県 助野貴美子

雨になりそうな夕方ベランダに不時着してるタシポポの種 東京都 音羽 凜

黒瀬 阿瀾選

足裏をつつきこなたと知らせるたかんなの穂に鎌をぶち込む 浜松市 久野 茂樹

【評】地上に出る前の若い穂は、足の裏の感触で探すのだと聞きませした。こなたーと思いついた先に鎌を打つ、熟練の技です。「ぶち込む」という思い切った表現がとても良い。

GDP4位となりし大空を大人ばかりで見るとどの日 古賀市 砂山ふらり

【評】日本の国内総生産はドイツに抜かれて四位になったとか。そして少子化を感じさせる下句……。こういう厳しい現実を見つめる、現在の私たちの抒情が、ここにあります。

珍品の鉄鞭買ったと声高に君告げに来る春の街角 東大阪市 築山 洋子

【評】鉄鞭とは中国唐代に由来する武器。そんな珍品ばかりに散財する「君」は実に嬉しそう。「私」は苦笑して付き合うのでしょうか。

丸つける音いつせいに吠えている特進クラスの答え合わせは 東京都 葉山 あも

農蚕の家業受け継ぐこともなく愚直の生を受け継ぎしのみ 静岡市 安藤 勝志

畦みちにすわり眺むる山並の残雪抱くは芦別岳か 美瑛市 上出 幸枝

突然の終りあるごと芍薬は今朝敷台に花崩したり 富岡市 長友 育代

沈丁の匂いもとめて路地行けば新入生の兄らに出会いぬ 四街道市 須賀登喜雄

千足屋のいちご大福はおばれば体まるごと「母の日」になる 岩手市 須山佳代子

荷を解けば祖父の匂いの春キャベツ噛めば噛むほど力となりぬ 始良市 井之川健児